

2017.11.5(日)



立川志らく

第2部  
15:00 開演 (14:30 開場)

# シネマ落語

シネマ落語

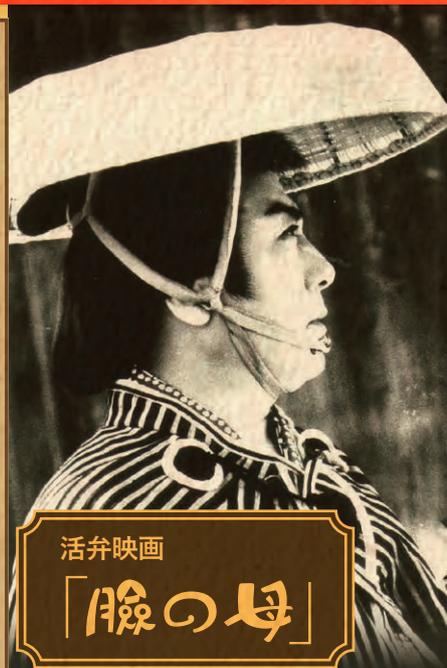
「ローマの休日」



第1部

12:00 開演 (11:30 開場)

# 活弁映画と落語



活弁映画

「顔の母」

昭和6年片岡千恵蔵プロダクション作品  
監督:稲垣 浩 出演:片岡千恵蔵、常盤操子、山田五十鈴



活動弁士  
澤登 翠



伴奏  
カランダモト



初音家左橋

落語

「芝波」

会場 新百合トウェンティワンホール  
(各回とも) 小田急線「新百合ヶ丘」駅北口徒歩2分・新百合21ビル地下2階

入場料 全席指定 第1部 2,000円 第2部 3,500円

第1部・2部セット 4,500円

TICKET チケット購入方法 9月30日(土)発売開始

▶ インターネット予約 24時間購入可能

\*9/30(土)9:00~発売開始

川崎市アートセンターHP (新百合21ホールのHPからもアクセスできます)

<http://kawasaki-ac.jp/th/>



POINT

- 空席を見ながらお席をお選びいただけます
- 予約したチケットは全国のセブンイレブンでお買い求めいただけます

\*ご利用には川崎市アートセンターの会員登録(無料)が必要です

▶ 窓口販売

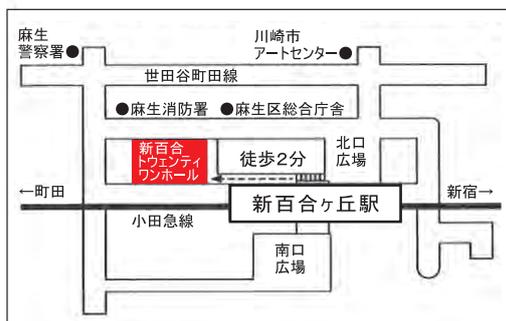
- ▷ 新百合トウェンティワンホール 10:00~17:00
- ▷ 川崎市アートセンター 9:00~19:30 (毎月第二月曜除く)
- ▷ マイタウンチケットセンター (新百合マプレ1F写真工房「彩」内) 9:00~21:00 (土日祝も営業・不定休)

▶ 電話予約

新百合トウェンティワンホール  
☎044-952-5000  
10:00~17:00

\*未就学児童の入場はお断りしております。\*都合により出演者、演目等が変更になる場合がございます。

Q アクセス



主催 公益財団法人 川崎市文化財団 NPO法人KAWASAKIアーツ(KAWASAKIしんゆり映画祭)  
後援 川崎市 NPO法人しんゆり・芸術のまちづくり  
お問合せ 新百合トウェンティワンホール ☎044-952-5000 10:00~17:00



## 第1部 活弁映画と落語



台本、語り 澤登 翠 さわとみどり

法政大学文学部哲学科卒業。故松田春翠門下。日本の伝統話芸「活弁」の第一人者として、国内を始め伊、米他海外にも招聘され公演している。洋画、現代劇、時代劇とレパトリーも豊富。活弁の継承者としての活動が評価され、これまでに文化庁芸術祭優秀賞、文化庁映画賞他を受賞。

無声映画鑑賞会での公演を基盤にフィルムセンターや各地の映画祭での公演、大学他での講座、TV番組のナレーション、朗読とその活動は多岐に亘る。2015年、「文藝春秋」に掲載の「日本を代表する女性120人」に選出、本年3月には松尾芸能賞特別賞を受賞している。



落語家 初音家左橋 はつねやさきょう

古典落語で寄席を拠点に活動し、池袋演芸場にて独演会を年3回開催。定例落語会として、全国30箇所で開催を目指している。町内会館やお寺などで行う「左橋地域落語会」は全国7箇所と益々広がりを見せている。落語だけでなく、全国で「笑い与健康」[笑う門には商売繁盛]などのテーマで講演

の他、動物ものまね、南京玉すだれ・獅子舞・日本舞踊等の特技もある。また、NHK朝の連続テレビ小説「チョッちゃん」など、多数のドラマに俳優としても出演している。芸術祭優秀賞を始め数々の賞を受賞するなど高い評価を受けており、次代を担う実力派真打の一人である。

### 伴奏 カラード・モノトーン



作曲・編曲・ギター・指揮 湯浅 ジョウイチ ゆあさじょういち

1987年、東京国際映画祭にてD.Wグリフィスの「国民の創生」の楽師を務めたことを機に、長年サイレント映画の伴奏用音楽の復元や作曲・制作なども行っている。また上映時に生演奏するための和洋楽団カラード・モノトーンを結成し、作曲・編曲・指揮の他、三味線等も演奏している。

海外ではポルデノーネ国際無声映画祭での参加作品「雄呂血」が高評価を受け、以来イタリア/フランス/ドイツ/スイス/スペインを巡るヨーロッパツアーを行い、精力的に活動している。



フルート 鈴木 真紀子 すずき まきこ

桐朋学園大学音楽学部卒。フルートを峰岸壮一氏に師事。1994年オーストリアとスイスで国際フルートセミナーに参加、ファイナルコンサートに出演。近年、モーツァルトのフルートカルテット全曲を阿部真也との共演にて演奏し、好評を博した。現在、楽団「カラード・モノトーン」や芹洋子のアコースティックバンドのメンバーとして活動。順天堂大学交響楽団のフルートトレーナー、東洋英和女学院フルート講師。

## 第2部 シネマ落語



落語家 立川志らく たてかわしらく

1963年8月16日生まれ。東京都出身。1985年10月立川談志に入門、1988年に二つ目、1995年に真打昇進。映画を落語に生まれ変わらせる「シネマ落語」の第1作目を1993年に発表し、現在までに70本を超える作品を作りあげる。定期落語会『立川志らく落語大全集』を国立演芸

場にて年4回行うほか、新宿紀伊国屋ホールでの『志らくのシネマ落語』など多くの高座に上がり続けている。人気落語家としての顔のほか、映画監督(日本映画監督協会所属)、映画評論家、エッセイスト、昭和歌謡曲博士、劇団主宰と幅広く活動。映画雑誌「キネマ旬報」での連載では「キネマ旬報ベストテン」の読者賞を3度受賞するなど、文筆においても才能を発揮している。幅広いジャンルで活躍し、注目され続けている「落語界の鬼才」である。TBS「ひるおび」レギュラーコメンテーター(月～金 10時25分～11時30分)。

### シネマ落語とは

“シネマ落語の概要を説明しておきます。とりあげる作品は洋画。時代設定を落語の時代、つまり江戸、明治、大正、昭和初期に変更。登場人物はすべて落語国の人。八つあんにご隠居さん、与太郎、権助、幫間の一八などなど。そしてエンディングに落語的な落ちをつける。”

— 立川志らく著「雨の中の、らくだ」より(新潮文庫)